



康心会汐見台病院

# 産科だより

令和2年

## ◆新生児蘇生法 (NCPBR)

今月末に日本周産期・新生児医学会が監修している新生児蘇生法（以下NCPBRといいますが）の一次コースの講習会を当院で実施します。

赤ちゃんは産まれた直後、臍の緒を止めることにより、胎盤からの血液循環が絶たれ、胎外生活に適応するために自力で呼吸を始めます。85%の赤ちゃんは産まれて10〜30秒のうちに自力で呼吸を始めます。10%の赤ちゃんがタオルで拭くことによる刺激で呼吸を始めます。5%の赤ちゃんがCPAP（気道へ持続的に空気を送り込む方法）や気管挿管（口からチューブを挿入し、呼吸を人工的に補助する方法）などの呼吸補助を必要とします。0.1%の赤ちゃんは呼吸補助以外に心臓マッサージや心臓の働きを助ける薬を必要とします。日本の統計では、およそ5人に1人の割合で、呼吸が安定するために何らかの補助を必要しているということになります。呼吸が上手にできない重症な状態を新生児仮死といいますが、新生児仮死は刺激や呼吸補助だけで約90%が蘇生できます。さらに心臓マッサージまで加えると約99%が蘇生できます。

全ての赤ちゃんの出生後の予知は難しく、順調な妊娠分娩経過をした場合でも、突然新生児仮死が起こることもあります。そのため、分娩に関わる全ての医療者が赤ちゃんを適切に救命できるような、知識と技術を習熟しておくことが必要されています。

今回の講習会の講師を務めるのはNCPBRのインストラクターの資格を持つ当院の助産師2人です。この講習会を修了すれば、当科の助産師全員がNCPBR資格を習得します。当院で扱う分娩件数は現在350件程です。分娩に関わっていると、なんらかの補助を必要とする赤ちゃんに出会うことは時々あります。そんなとき当院では、24時間体制で小児科医もいますので、医師と助産師数名で対応しています。苦しい赤ちゃんを素早く、適切に救命できるよう、今回の講習会だけでなく、実例を通して、より学習を深められるようこれからもスタッフ全員で努力してまいります。



## ◆今月の赤ちゃん



出生後、低血糖だったため、点滴をしていました。飲む量が増えてきて、写真では点滴を一旦中止した状態です。母乳をたくさん飲んで、ゲップをさせてもらっているところを撮らせてもらいました。満足したのか、ママにトントンされながら一点を見つめてうっとり。可愛すぎる〜！

## ◆編集後記

今年も個性溢れるたくさんの方と出会うことができました。このコロナ禍で、みんなが不安を抱えている中で産まれてきてくれたことに本当に感謝です。面会できない状態が続いており、ママやご家族にはご理解・ご協力していただき大変感謝しております。いつ終息するかわかりませんが、面会が再開できるようになるまで引き続きご協力していただきたいと思います。第3波の真っ最中ではありませんが、来年もみんなで乗り越えられるよう頑張ってくださいませ。今年も一年ありがとうございました。令和3年もどうぞよろしくお祈りいたします。

担当 郷原

